



図第6図 最低気圧の出現した月

がやってきたときに起り得るであろう。

次に、最低気圧の出現した月をしらべてみると、第6図にみられるように、地域的に割合よくまとまっているのが目立つ。即ち、九州地方から東北地方の大部分の地域では、大体7月、8月、9月、10月の4か月に限られ、しかもこの中、四国、中国、近畿及び中部地方の大半は9月となっている。これはこの方面では9月の台風による影響が大きかったことを示すものといえよう。又東北地方の北部から北海道の大部分は、12月、2月、3月、4月、5月とかなり幅ひろくなっている。これは、大陸旋風による影響が大きいことを示すものであるが、ただ北海道の北部と西部の一部に台風の影響による9月があるのは注目すべきであろう。

7. むすび

今回は第2室戸台風の経過に関連して、台風の最低気圧に関する調査報告を行なった。

なお台風が北上して本邦付近に来襲又は上陸するときには、一般に中心気圧が、南方にあるときよりも減衰することは、よく経験することであるが、このことについては次報にて報告することにしたい。

国際宇宙線・地球嵐会議(1961)および国際磁気学・結晶学会議(1961)のProceedings
刊行について

日本物理学会では、1961年9月に京都で開かれた国際宇宙線・地球嵐会議および国際磁気学・結晶学会議のProceedingsを刊行し、1962年1月頃有料で配布します。それぞれ440篇および320篇の論文が収録され、いずれも

3分冊として出される予定です。詳しくは次にお問合わせ下さい。

社団法人 日本物理学会

東京都文京区本富士町1

東京大学理学部内

振替貯金口座 東京 167544

電話 (921)5904

8巻10号「太陰暦日に上おける23のシンギュラリティ」に誤りがありましたので訂正願います。

ページ行	誤	正
21ページ左上3	筆者は	筆者 ⁽¹⁾ は
上16	(取暦、	(宝暦、
下14	日とせる、	日とする、
下13	とする。(定期)	とする(定期)。
下12	とする。(定気)	とする(定気)。
下3	365.242日	365.2422日
右上6	は年間に19回	は19年間に1回
上9	目録は第1表	目録が第1表
下13	シリーズをII」 使った	シリーズII」を使 った
22ページ左下6	高知の面	高知の雨
右下10	より21月日	より21日

下9	行なれた	行なわれた
下4	19・第一)	19・オ・一)
23ページ第4表	12.7	12.9
≥30.0行5列		
≥50.0行12列	2.0	2.9
右上7	太陽暦11月	太陰暦11月
下12	がどうろ	がどうろどろ
24ページ第6表	なかは表に	なかは2表に
見出し		
第7表見出し	なかは表に	なかは2表に
左下7	12月28日の	12月8日の

「第2室戸台風」の28頁5図中美濃白鳥(845mm)の観測資料を削除して下さい。その付近の最多雨量は白鳥(494mm)があります。